

会 議 録

| | | | |
|-----------------|--|--------|----|
| 会議名称 | 令和5年度第1回伊達市庁舎整備検討委員会 | | |
| 議 題 | (1) 本庁舎の現状と課題について (2) 本庁舎整備の基本的な考え方について | | |
| 開催日時 | 令和5年11月28日（火）午後4時30分～午後5時40分 | | |
| 場 所 | 伊達市役所3階第2、3会議室 | | |
| 出席者 | 委員：12名（欠席：2名） | | |
| | 所管部課名 | 総務部総務課 | |
| 公開 非公開 の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 | 傍聴者の人数 | 2人 |
| | <input type="checkbox"/> 非公開 | 非公開の理由 | |

【会議録】

1 開会（進行：総務課長）

事務局より、委員の過半数以上の出席により会議が成立していることを報告

2 市長挨拶

高校生を含めた多様なメンバーに集まっていたいただいており、未来の市役所庁舎のあり方について若い方の視点からご意見をいただきたい。時代とともに庁舎の役割が変わっており、現在は時代の過渡期にある。それぞれの立場からこれまでの知見や経験を活かした忌憚のないご意見をいただきたい。

3 委員の委嘱

市長より各委員へ委嘱状を交付

4 正・副委員長を選出

委員の互選により、委員長に学識経験者である室蘭工業大学の谷口委員、副委員長に連合自治会協議会の阿部委員を選出

【以降、委員長による進行】

5 諮問

市長より別紙「諮問書」を谷口委員長へ提出

6 議事

(1) 本庁舎の現状と課題、(2) 本庁舎整備の基本的な考え方 について、資料に基づき事務局から一括説明

【質疑・意見交換】

委員A

現庁舎は既に50年近くが経過しており、改修したとしても何年持つか不透明である。長期的な費用対効果を見れば建替えの方が有利と思われる。

DXは、高齢者にはなじみが薄いので、取り残されないよう配慮してもらいたい。

第2庁舎に業務が分散されており、慣れている人は支障ないが、新たに転入してきた人にとってはわかりづらいと思うので、その点の検討も必要になってくる。

□委員B

第2庁舎を利用することがあるが、わかっている人はいいが、転入してきた人にとってはわかりづらい。改修より建替えに賛成。

□委員C

費用面や改修しても何年持つかわからないことを考えると建替えが良いが、財源も問題になる。建替えた場合、庁舎にテナントを作ることは可能か。

■事務局

財源については、庁舎整備に活用できるものがあまり無く、防災に関する有利な起債や環境に関する補助金を合わせて活用するなど考えている。テナントについては、可能な場合もあるので、建替えると決まった場合は改めて検討していきたい。

□委員C

稼げる庁舎を含めて建替えした方が良い。また、大滝総合支所はどうなるのか。

■事務局

将来的にはリモートでの対応といったことも考えられるが、具体的な検討はまだしていない。

□委員D

建替えに賛成。公共施設は安全・安心が重要である。

夏に市役所に行くと西日が当たっている職員の背中がものすごく暑そうで、気の毒に感じていた。夏の暑さ対策を含めて、働く環境が良くなると仕事のモチベーションも上がると思う。

色んなものが大滝から伊達に移転しており、漠然と不安になる。

有珠山噴火や災害に関してどなたも不安であり、災害対策の拠点という面では建替えの要因の一つになる。

□委員E

平成27年に耐震診断をしているが、現在は更に悪化している可能性もあるのではないかと。

改修しても20年後に建替えるのであれば、すぐに建替えた方がいい。

□委員F

第2庁舎も32年が経過しているので、本庁舎以外にも費用面でどれだけかかってくるのか気になる。

夏は暑く、市役所に行くのも気が引ける。環境面の改善もできればと思う。現在の庁舎にエアコンを設置するにしても、エネルギーを余計に消費するので建て直しが良い。

テナントについても面白いと思う。

□委員G

先程も1階のトイレを利用したが古い感じがした。説明を聞き、老朽化が進んでいる印象

を受けた。費用面についても長い目で見れば建替えの方が良いと思う。

□委員H

庁舎の現状と課題の説明を聞いて、改修では乗り切れないと思う。未来に目を向けるのであれば建替えすべき。

基本はデジタルに賛成だが、高齢者が取り残されないよう工夫が必要である。

□委員I

建替えが良いが費用が大きくなるので、市民に建替える価値があると思っただけの仕組みが必要。テナントにより多くの市民に利用してもらうなど今後の検討だと思う。

□委員J

説明を聞く限り、今の建物自体もう無理だと感じた。

未来に引き継がなければならない歴史的な建物でないのであれば、今の庁舎にこだわる必要はない。

DXに賛成だが、これからどのように変化していくかわからない。新しく庁舎を建替えるのであれば、60年先を見据えるのではなく、10年ぐらいで見直せるよう柔軟に作っておいて、時代に合わせて選択できるようにすべき。

□委員K

建替えが良い。あまり市役所に来ないのでどこに何があるかわからなかったのも、見やすいようにしてほしい。

伊達市は外国人が多いイメージがあるので、外国人にもわかるようにしてほしい。

□委員長

皆さん建替えという意見であった。

防災の拠点という観点からみると、熊本地震の際の庁舎の倒壊は衝撃を受けた。庁舎は災害対策の拠点となる施設である。その機能を失ったことを考えると今後の庁舎整備について考えさせられるものがある。

庁舎が2つに分かれていて使いづらいという意見があったが、新しいものをどう作るか今後検討していく必要がある。

DXについては、取り残される人がいないよう徐々に対応していかなければならない。

また、施設に余裕を持たせるという視点が必要。

費用面については、稼げる庁舎という意見があったが、民間資金の活用なども含めて今後検討が必要になってくる。

□委員J

この委員会の目的を再度確認したい。

□委員長

市長から諮問を受けた事項について、市民の代表としてこの委員会で意見をまとめる。まず、建替えるのか改修するのかを今年度中に回答を出す。建替えとなった場合、最終の設計業務は専門に委託することになるが、その手前のどういう機能を持たせるかなどの意見を出

し、市へ答申を出すことになる。

□委員H

市民説明会の質疑応答の中で、建替える場合、移転は考えにくいとあるが。

■事務局

市民説明会での質疑応答を記載したもので決定事項ではない。建替えに決定した時に改めて場所について検討していくが、適当な広い土地がないのも事実。

7 その他

本委員会の意見を取りまとめ、年明けに次回委員会を開催する。

8 閉会

令和5年第1回 伊達市庁舎整備検討委員会

日時：令和5年11月28日（火）16時30分から

場所：伊達市役所本庁舎3階第2、3会議室

<次 第>

1 開 会

2 市長挨拶

3 委員の委嘱

4 正・副委員長の選出

5 諮 問

6 議 事

(1) 本庁舎の現状と課題

(2) 本庁舎整備の基本的な考え方

7 そ の 他

8 閉 会

伊 総 号
令和5年11月28日

伊達市庁舎整備検討委員会委員長 様

伊達市長 堀 井 敬 太

諮 問 書

伊達市庁舎整備検討委員会条例第2条の規定に基づき、下記の事項を諮問いたします。

記

1 諮問事項

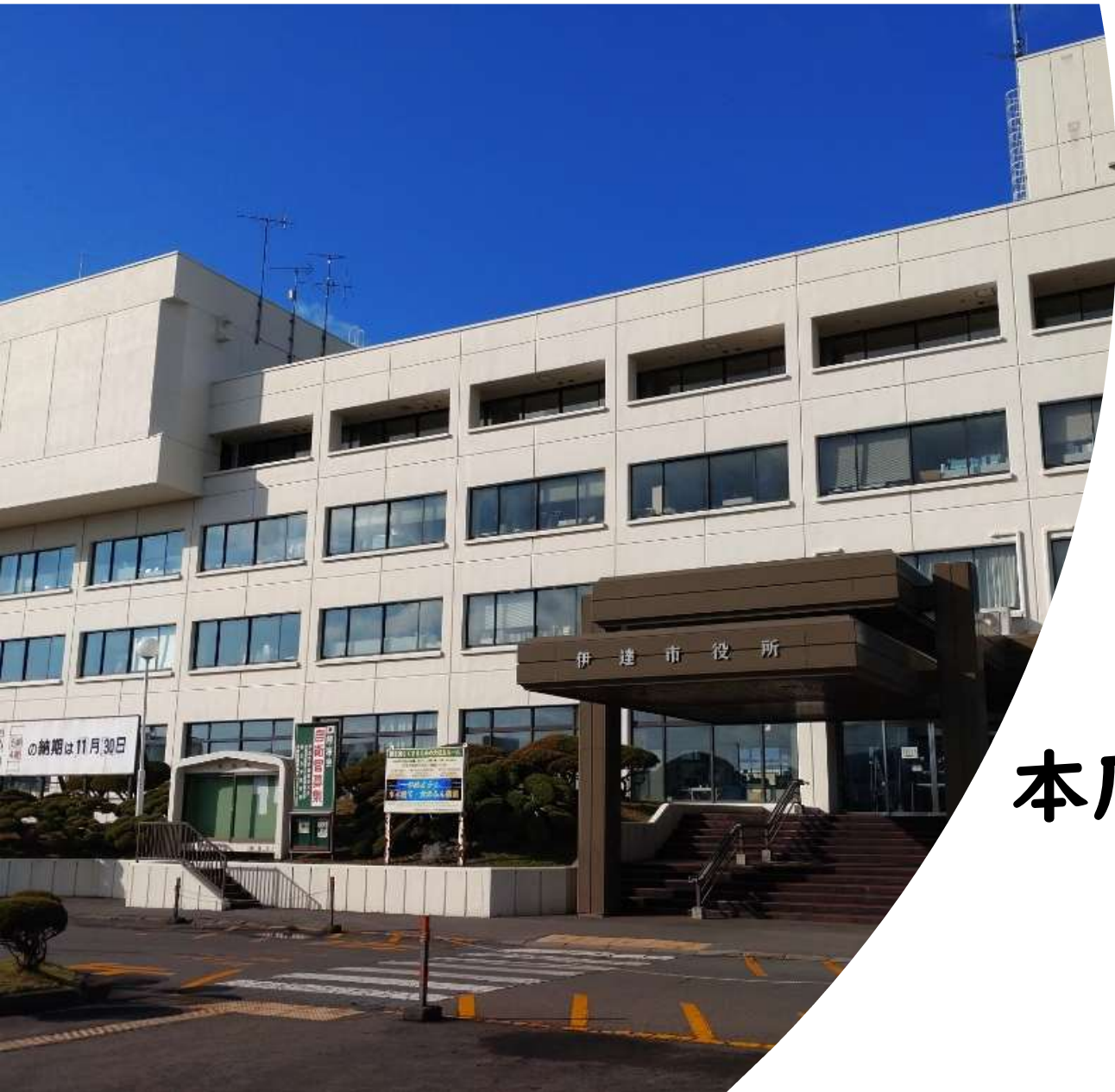
- (1) 庁舎の整備方法について（建替えか改修か）
- (2) 市役所に求められる機能について
- (3) その他、庁舎整備に関することについて

2 諮問理由

本庁舎は、昭和50年の使用開始から48年が経過しており、施設や設備の老朽化に加え、耐震性能の不足など様々な問題を抱えており、早急な整備が必要です。

しかしながら、物価上昇に伴い建設資材価格が高騰している現状や、国と自治体が一体となって進める行政のデジタル化（自治体DX）の進捗により、行政手続きが変化し、行政に対する市民ニーズに変化が生じると推測されます。

このような状況を踏まえ、庁舎整備について貴検討委員会の提言をいただきたく諮問するものであります。



令和5年度第1回 本庁舎整備検討委員会

令和5年11月28日（火）

伊達市総務部総務課

目 次

- 1 本庁舎の現状と課題
- 2 本庁舎整備の基本的な考え方
- 3 その他

1 本庁舎の現状と課題①

■本庁舎



- ▼位置 伊達市鹿島町20番地1
- ▼竣工 昭和50年（48年経過）
- ▼構造等 鉄筋コンクリート造
地上5階、地下1階、塔屋2階
- ▼面積 6,160.86㎡（延床）

■第2庁舎



- ▼位置 伊達市末永町39番地
- ▼竣工 平成3年（32年経過）
- ▼構造等 鉄筋コンクリート造
地上2階建
- ▼面積 2,028.23㎡（延床）

1 本庁舎の現状と課題②

■耐震性の状況

平成27年度に行った耐震診断調査において、耐震性能が著しく不足していることが判明しました。

耐震診断調査結果 (Is値)

| 階数 | 南北方向 | 東西方向 |
|----|--------------|--------------|
| 5階 | 0.583 | 0.579 |
| 4階 | 0.421 | 0.340 |
| 3階 | 0.306 | 0.458 |
| 2階 | 0.279 | 0.366 |
| 1階 | 0.345 | 0.411 |
| 地階 | 0.786 | 0.268 |

建物の判断指標 (平成18年国土交通省告示による)

| Is値 | 震度6強程度の地震が起きた場合 |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| $Is < 0.3$ | <u>地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い</u> |
| $0.3 \leq Is < 0.6$ | 地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある |
| $0.6 \leq Is$ | 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い |

Is値：建物の耐震性能を示す指標で、大きければ大きいほど耐震性が高いとされている

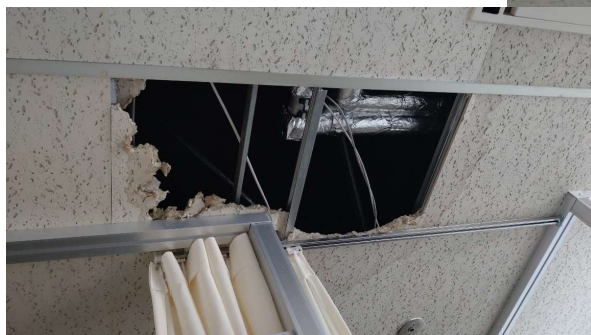
1 本庁舎の現状と課題③

■老朽化等の状況

施設や設備の劣化が著しく、庁舎を維持・管理するための経費が、今後さらに増大する可能性があります。

また、エレベーターや自動ドア、防災設備などの各種設備が耐用年数を迎えており、その更新が課題となっています。

管壁及びねじ部の腐食により
度々漏水等が発生



水漏れにより抜け落ちた天井



外壁・内壁のひび割れ



電気室やボイラー室が地階にあるため、大規模な津波災害時など、電気の供給が出来なくなる恐れがあります。



ボイラー室（地階）

電気室（地階）



1 本庁舎の現状と課題④

■利用者の利便性(1)

バリアフリー化が不十分であり、多目的トイレが地階しかなく、高齢者や障がいのある方にとって利用しづらい施設となっています。

窓口業務が分散しており、ワンストップ対応ができておらず、窓口サービス機能の向上が求められています。

正面玄関



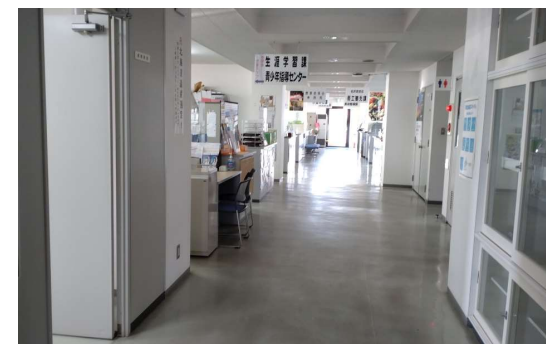
多目的トイレ
(地階)



各階トイレの状況



本庁舎



第2庁舎

1 本庁舎の現状と課題⑤

■利用者の利便性(2)

所々ある柱により思うような配置ができず、スペースの有効活用ができていない状況です。

耐震改修を行った場合は、建物内部に多数の耐震ブレース（筋交い）が入るため、さらにスペース確保が困難になります。

十分な駐車スペースが確保されておらず、来庁者が駐車できない場合があります。



庁舎正面駐車場



執務室の状況



千歳市役所の状況
(耐震改修を実施)



1 本庁舎の現状と課題⑥

■本庁舎整備の必要性

本庁舎は、昭和56年以前の旧耐震基準に基づいて建設されており、耐震診断調査の結果、大規模地震に対して“倒壊または崩壊する危険性が高い”と判断されたことに加え、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」に基づく防災対策推進地域及び津波避難対策特別強化地域として新たに指定されたとともに、近い将来訪れる有珠山噴火に備えるため、**災害に強く、災害対応の拠点となる施設**とすることが必要です。

また、施設や設備の老朽化が進み、安全性・利便性など多くの点で庁舎機能が低下している。



様々な課題を抱えているため、**早急に庁舎整備を進めなければならない**

2 本庁舎整備の基本的な考え方①

■災害に強く災害対策活動の拠点となる庁舎

耐震性を確保し、安心して利用できる建物とするとともに、災害発生時には災害対策活動の拠点として市民の生活を守るため、一時待避所や停電時においても一定期間必要な電源供給が行える非常用発電など迅速な支援や復旧活動を行えることが出来る様々な機能を備えた安心・安全な庁舎を目指します。



■将来負担を考慮した経済的な庁舎

令和7年度まで活用可能な国の「緊急防災・減災事業債」を視野に入れ、国の財政支援措置の動向を注視したうえで、将来に過度な負担とならないよう努めます。

また、改修及び改築に当たっては規模や設備に応じたコストがかかることから、将来の維持管理費に影響を与える華美過大又は必要性が疑わしい設備等は採用せず、経済的な庁舎を目指します。



2 本庁舎整備の基本的な考え方②

■機能性に優れ、効率的でコンパクトな庁舎

適正な執務空間を確保するとともに、社会情勢や市民ニーズの変化による行政組織や行政サービスの見直しなど、将来の変化に柔軟に対応できる機能と空間の確保を目指します。

また、人口減少に伴う職員数の減少に加え、情報化社会に対応した庁舎のあり方を踏まえて、機能的でコンパクトな庁舎を目指します。



■すべての人が利用しやすく環境に優しい庁舎

高齢者や障がい者、小さい子ども連れの親など、誰にとってもわかりやすく、使いやすい施設としてユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化を図るなど、利用者の視点に立った庁舎を目指します。

また、脱炭素社会の実現やSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて、環境への負荷をできるだけ低減するため省エネルギー化や自然エネルギーの活用など、地球環境に配慮した庁舎を目指します。



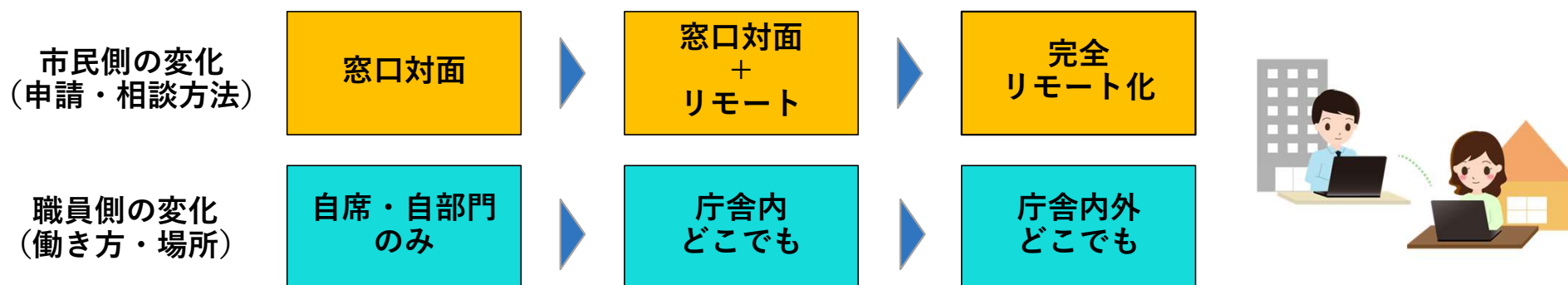
2 本庁舎整備の基本的な考え方③

《自治体DXにより変わる庁舎空間》

自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、自治体が最新のデジタルテクノロジーを活用することで、業務プロセスや提供する公共サービスを変革すること。

自治体DXの重点的取組事項

- | | |
|---------------------|------------------|
| ①自治体フロントヤード改革の推進 | ④セキュリティ対策の徹底 |
| ②自治体の情報システムの標準化・共通化 | ⑤自治体のAI・RPAの利用促進 |
| ③マイナンバーカードの普及促進 | ⑥テレワークの推進 |



DXにより、これまでは市役所に行かなければできなかった手続きが不要になると、来庁者は減少し、窓口や待合スペースは縮小され、職員側の業務効率も改善されます。

また、これまで窓口に配分されていたスペースが見直されると、庁舎機能にも変化を及ぼします。

2 本庁舎整備の基本的な考え方④

■「本庁舎整備検討委員会」で改修or建替えの方向性の検討

| | 耐震改修を含む大規模改修 | 建替え |
|----------------|--|--|
| 整備概要 | ▼耐震改修に加え、設備更新等の大規模な改修工事を行う | ▼現敷地内または別の場所に建替える |
| 仮設庁舎 | ▼必要 | ▼不要（用地取得が必要な場合あり） |
| 費用 | ▼設計等業務委託費 ▼耐震、大規模改修工事費 ▼仮設庁舎建設費 合計35～45億円 | ▼設計等業務委託費 ▼建設工事費 ▼その他経費（解体工事、備品購入等） 合計55～65億円 |
| その他 (検討事項等) | ▼耐震補強による面積減分の対応は要検討 ▼改修後の活用は20年程度の見込みのため、20年後には建替えが必要 | ▼建設場所（まとまった土地の確保は困難）や規模（施設の複合化など）の検討 ▼第2庁舎の利活用について |

※資材価格の高騰等により事業費が増大する可能性あり。

▼実際の整備時期は、慎重に議論を重ね、市の財政状況を考慮した上で決定。



3 その他

▼令和5年1月 市民説明会開催（だて歴史の杜カルチャーセンター・市民18名参加）

<主な質疑応答>

Q. 庁舎整備に関する視察を行った中で機能的で参考となる庁舎があったか。また、アドバイザーや相談先を設ける考えは。

A. 道内ではまだ自治体DXを取り入れ建物は少ない印象であった。これからの庁舎はDXが必要な視点となる事から十分検討したい。

Q. 防災のことを考えると建替えがよいのでは。建築費用を返済していくのではなく、庁舎で稼げるような仕組みを考えてみては。

A. 建替えた場合、現庁舎を全て取り壊すのではなく一部残して使用するという考えもある。知恵を出し合い、検討していきたい

Q. 建替えし将来に対応できる施設にすべき。1、2年で結論を出して進めてほしい。

A. 早急にとの意見だが、一方的な説明にならないよう議論を重ね丁寧に進めていきたい。

Q. 建替えしてほしいが、場所はどうなるのか。

A. 庁舎建設にはある程度の面積が必要になるが市街地にはまとまった土地がないことから移転は考えにくい。

